

防災まちづくり 糸満西崎 大臣賞 独自に避難ビル協定

総務省消防庁は28日、地域に根ざした効果的な防災活動を表彰する「防災まちづくり大賞」の選考結果を発表した。最優秀の総務大臣賞には、糸満市の西崎ニュータウン自治会自主防災会が選ばれた。

消防庁長官賞は5団体、日本防火・防災協会会長賞は10団体をそれぞれ選んだ。

会（会長・渡慶次賀庫自治会長）など3団体を選んだ。表彰式は3月4日に東京都内で開く。

2008年に発足した同会は、年2回の防災訓練のほか、地域の6階建てアパートと避難ビルの協定を締結するなど独自の取り組みを進めている。防災会の中心で元那覇市消防局職員の高我知進副会長（68）は「東日本大震災後、防災意識が高まった。今後も自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちで取り組みたい」と抱負を語った。大賞はそのほか、根新田町内会（茨城県常総市）とSeya（横浜）防災ネットワーク（横浜市）消防庁長官賞は5団体、日本防火・防災協会会長賞は10団体をそれぞれ選んだ。

西崎自主防災会に大臣賞

【糸満】総務省消防庁は28日、地域に根ざした効果的な防災活動を表彰する「防災まちづくり大賞」を発表し、糸満市西崎町の「西崎ニュータウン自治会自主防災会」（渡慶次賀庫会長）を最優秀の総務大臣賞3団体の一つに選んだ。県内約300の自主防災組織からは初めて開く。

同自主防災会は2008年結

糸満 ニュータウン自治会 08年から地道に訓練



同会があるのは、約250世帯700人で、海拔3・2層の海岸線に面した地域。もともと津波発生時の人的、物的被害が懸念されていたという。

「少子高齢化が進み、助け合いが大切になる」と発足に携わった同会副会長の古我地進さん（68）は「元那覇市消防本部消防司令長は「びつくり仰天。安心して暮らせる地域を目指してきたからこそ受賞。皆の励みになる」と喜んだ。

車いす使用者の避難支援方法を学ぶ西崎ニュータウン自治会の住民ら。2015年3月、糸満市西崎町